

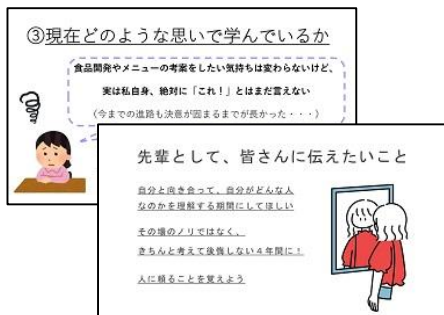


授業の様子

第4回「SAの発表」

SAが自分の大学生活についてプレゼンテーションを行いました。上級生であるSAの発表を新入生が聞くことで、これからの学びの見通しを持つことを目的としています。

今年度のSAはコロナ禍の大学生生活を過ごし、オンライン授業やサークル活動の自粛などを経験してきました。自身がこれまでに経験してきたこと、それらを通して感じたこと、新入生へ伝えたいことなどを飾らない言葉でプレゼンテーションしてもらいました。



授業終了後には新入生から多くの感想が寄せられ、実りある機会になったことがわかりました。この場を借りて、準備などを含め発表に尽力されたSAの皆さんに改めて御礼申し上げます。



上級生の話を聞く

SAの発表を聞いた感想

早めに将来について考える大切さ

「気になっていることは全てやってみる」という言葉に気持ちが動かされました。大学に入学したらやろうと思っていたことがたくさんありました。でも、実際に大学生活が始まると疲れてしまったり、面倒臭くなってしまったりして、諦めて帰ってしまうことが多かったです。この言葉を聞いてから、一歩踏み出せるようになりました。

プレゼンテーションが上手で驚き

先輩の話を聞く機会がなかなかないので、嬉しかったです。たった一つ学年が上だとは考えられないくらいプレゼンテーションが上手で驚きました。経験を積むことが大切だというアドバイスがありました。自ら行動してさまざまな活動に参加されて、そこで得たものをお話しされていたので、とても説得力がありました。

勉強を頑張ろうと思い直す

普段から学業優先&数多くの資格取得のために計画的に生活していることを見習うべきだと思いました。私は図書館司書の取得のために5限まで続く授業も多くて、気持ちがめげそうになっていました。発表を聞いて、将来就職するときの選択肢が広く持てるように、勉強を頑張ろうと思い直すことができました。

ストイックな生活の話に刺激

早くからインターンシップに参加したり、隙間時間にも勉強したり、趣味も存分に楽しんだり、ストイックな生活の話に刺激をもらいました。すでに十分努力されているのに「まだ上を目指せるし努力できる」と聞いて、本当に感心するばかりでした。私は自分を甘やかす節があるので、自分に厳しく努力できる人になりたいです。

やってみようと思うアドバイス

アドバイスが的確で「あ、やってみよう!」と素直に受け入れることができました。将来の話で「自分がやっていないことを生徒に教えたくない。教えるためには、まず自分がやってみる」とおっしゃっていました。今回のアドバイスも、アルバイトや生徒会長の経験を交えて教えてくれたことで納得できました。

コロナ禍を言い訳にせず

コロナ禍でオンライン授業が行われる中、コロナを言い訳にせず、むしろプラスに考え時間を有効に使っていたと聞いて、前向きな姿勢を自分も取り入れていきたいです。「苦手なことでも一生懸命やってみる」という言葉が心に響きました。自分の何倍も沢山のこと、特に将来のことを考えていて尊敬しました。



博物館の常設展見学



今年度は対面授業が可能になり、博物館の常設展見学が復活しました。博物館見学の醍醐味は、実物に出会える場所であること。書籍やネットからの情報だけでなく、実物から得た知識や感動は一生ものです。実際に博物館を見学した学生の感想をご紹介します。



最初に博物館に入って目に止まったのが、渡邊辰五郎さんが「近代日本人の肖像」において、**福沢諭吉と共に近代日本の形成に影響のあった教育家の一人に挙げられているという説明文で、このことを今回初めて知りました。**

裁縫の教科書の展示では、1対1などの少人数で教えていた裁縫を、**学校で大勢に教えるために教科書を作る工夫がされた、**という解説があり、当時の女性にとっては有難く、革新的なものだったのではないかと考えました。

制服や学生の洋服の変化が、写真で分かりやすく示されていて、卒業式で着る袴から、バブル時代を感じさせるファッション、今に近づいてきた洋服まで、**洋服だけでも時代の流れがこれだけわかるの**だなと感じました。他にも、水着が布製なものにも驚きました。今では速乾性のある素材で作られているので、昔の水泳は動きにくかったのではないかと感じました。

青木誠四郎先生の「学生の母へ感謝を込めて描かれた母の日のカーネーションの絵手紙」が印象に残りました。**学生の母に絵手紙を送るなんて、青木先生は性格が良すぎます！**絵手紙を受け取った学生の母たちは喜ぶに違いありません。私も青木誠四郎のようにgiveの精神をもてる人になりたいです。

今とは違ってミシンが数台しかないため、順番待ちをして、待っている間は返し縫いなどに充てていたことを知り、少しでも**時間を無駄にせず、作品を作り上げる裁縫に対する熱意**が伝わりました。

昼休みに博物館へ行きお腹が空いていたため、「**昼食の移り変わり**」に惹かれました。初めの頃は日本食だったのが、洋食が取り入れられるようになったり、値段が100円以下だったのが値上がりしたり、時代の流れを感じました。クリームソーダがあつて羨ましいとも思いました。

SAのご紹介

あえて苦手なことに挑戦

児童学科育児支援専攻2年 HSさん

わたしは人見知りで人前に出ることが苦手でしたが、将来保育者になったら、子どもや保護者の前に立たなければいけない立場になります。あえて苦手なことに挑戦し、少しでも自信をつけたいと思い、SAに応募しました。

実際の授業では、先生やSAに話しかけづらい1年生もいると思うので、わからないことがあるようだったら、わたしから話しに行くなど、1年生の様子をしっかりと観察して快適な授業になるように心掛けています。

一方で、グループ活動の際にSAがどこまで踏み込むべきか、判断が難しいときもあります。担当クラスはどのグループも活発で沈黙の時間はあまり見受けられず、基本的には介入せずに見守るようにしています。とは言え、SAの大切な役割はグループ活動をサポートすることなので、会話に入るべきなのか、その加減が難しく、今後うまくバランスを取っていききたいです。そして、第4回のSA発表は大きな成長に繋がる機会でした。ひとりで大勢の前でプレゼンするのは初めての経験で、不安もありました。でも発表していると、1年生が頷きながら一生懸命耳を傾けてくれたり、メモを取ってくれたり、質問や感想を述べてくれたりして、すごく嬉しかったです。苦手だと感じていた人前で話すことにも少し自信がつかえましたし、どうすれば自分の考えを相手に伝えることができるかなど、子どもの前に立つた時にも必要な考え方や工夫をする力もついたと思います。

